



# ひびき

Letter of the M.Y. elementary school  
南山田小学校だより

～ ともだちいっぱい かがやく子 ～

学校通信 NO.358  
令和8年度 7月号  
令和8年 6月30日

「みんなの勝ち点1」から学ぶ

校長 岸 俊介

先日のサッカーワールドカップ、日本対オランダ戦では、本校卒業生の小川航基選手が出場し、日本は試合終了間際に劇的な同点ゴールを決めました。卒業生の活躍に、多くの児童や保護者の皆様も胸を躍らせたことでしょう。

6月16日の朝日新聞の記事「みんなの勝ち点1、はまった分析 日本2—2オランダ サッカーW杯北中米大会」を読みました。そこには、得点の裏にある大切なことが書かれていました。

得点は鎌田大地選手の記録となりましたが、その場面には三人の選手の連係がありました。コーナーキックを蹴った伊東純也選手は、直前のプレーを振り返り、より効果的なボールを供給しようと工夫しました。小川選手は相手守備陣との駆け引きを重ねながら、ゴール前で決定的な位置へと走り込みました。そして鎌田選手は相手守備の動きを抑え、小川選手が自由に動ける状況をつくりました。三人がそれぞれの役割を果たした結果として生まれた得点でした。試合後、小川選手は「僕のゴールだろうが、(鎌田)大地君のゴールだろうが、みんなの勝ち点1」と語ったそうです。この言葉に、私は深く心を動かされました。私たちは結果だけに目を向けがちですが、その陰には仲間を支える多くの働きがあります。

さらに私は、このような連係の土台には「信頼」があるのだらうと思います。伊東選手は、仲間を信じてボールを蹴ったはずです。小川選手も、仲間を信じて走り込んだことでしょう。鎌田選手も、自分が目立つことではなく、チームのために体を張りました。互いを信頼しているからこそ、自分の役割に集中し、仲間のために力を尽くすことができるのです。

学校でも同じような場面があります。先日、1年生のある学級で、一枚のマットを4人で運んでいる姿を見ました。大きなマットを、四人は息を合わせて運んでいました。その姿を見て、「みんなの力でできた」という喜びが、子どもたちの日常にもあることを感じました。日々の学習や行事、当番や係活動など、一人が頑張るだけでは十分な成果は生まれません。友達を応援する人、準備をする人、困っている人に声をかける人など、多くの人の力が集まって初めて、学級や学校としての成果が生まれます。

そして、そのためには安心できる環境が欠かせません。自分の考えを話しても大丈夫。失敗しても受け入れてもらえる。困ったときには誰かが支えてくれる。そんな安心感があるからこそ、人は仲間を信頼し、力を発揮できるのです。

私は、誰もが安心して過ごせる学校を「チーム南山田」で共創していきたいと考えています。安心できる環境の中でこそ、子どもたちは挑戦し、成長することができます。

小川選手たちが見せてくれた「みんなの勝ち点1」という姿は、私たちに大切なことを教えてくれました。成果は誰か一人のものではなく、みんなでつくり上げるものです。そして、その土台には安心と信頼があります。本校でも、子どもも大人も互いを信頼しながら力を合わせ、「みんなで成果をあげる喜び」を実感できる学校づくりを進めていきたいと思ひます。



☺学校ホームページをご覧ください☺

※各学年の活動や学校からのお知らせなどを掲載しています。ぜひご覧ください。  
URL <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/minamiyamata/>

